エゾシカによる林業被害は減っているのか？

1998 年に「道東地域エゾシカ保護管理計画」が策定されてから３年が過ぎました。エゾシカの個体数指数（ライトセンサスや農林業被害額などのエゾシカ個体数に関する指標を 1993 年を 100 として基準値化したもの）も 1996～1997 年頃をピークに低下してきており、1999 年には概ね 80 から 100 の間にあるとされています。では、林業被害は減ったのでしょうか。

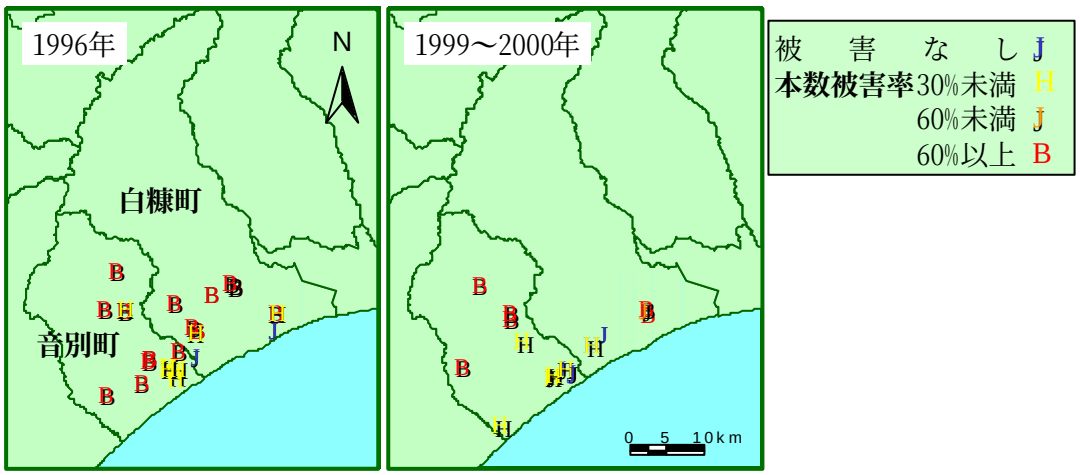
林業試験場で調査を行っている釧路支庁西部地域では、I 齢級カラマツに激害（被害率 60%以上）が発生した林分数は以前に比べて減少しているという傾向がみられました（図－１）。しかし、まだ繰り返しエゾシカによる食害を受けて盆栽状になっている林分もあるので、依然としてエゾシカの生息密度が高すぎる地区もあると考えられます。

エゾシカの個体数管理によって、林業被害は減少すると考えられますが、エゾシカの生息に適した地域の周辺では今後も被害が続くと予想されます。

個体数管理に林業被害の状況を反映させるため、継続的な調査を行って、被害の推移を把握する予定です。

（道東支場）

エゾシカの食害によって盆栽状になった５年生カラマツ
（1999 年 10 月　音別町にて撮影）



図－１　釧路支庁西部地域におけるカラマツ 1～3 年生林分の被害の推移